

### Ⅲ 初期成長の優れたコンテナ苗生産技術及び植栽実証試験

(実施期間：平成 27 年度～ 31 年度 予算区分：単県課題 担当：富森加耶子)

#### 1 目的

コンテナ苗は用土付のため、従来の裸苗（根がむき出しの状態）と比較して植栽可能な時期が長く、活着率が良好とされ、低コスト造林に期待されている。本研究では、コンテナ苗の生産技術を確立し、植栽後の初期成長を評価する。

#### 2 実施概要

##### (1) 方法

苗畑で育苗した裸苗（図 1 左）とコンテナ苗（図 1 右）を大山町赤松の試験地へ植栽した。育苗段階（苗畑及びコンテナでの育苗期間）と植栽 1 年後（植栽後から 1 成長期終了後まで）の樹高、直径を測定し、期間成長量を比較した。

##### (2) 結果

育苗段階では、樹高・直径ともに裸苗の成長量が大きかったが、植栽 1 年後はコンテナ苗のほうが良い成長を示した（図 3、4）。植栽 1 年後の樹高は裸苗 46.5cm、コンテナ苗 44.4cm、直径は裸苗 8.0mm、コンテナ苗 8.4mm であった。コンテナ苗がこのまま良い成長を続けると、裸苗の樹高を上回る可能性が考えられた。今後も継続して調査を行う予定である。

#### 3 結果の図表と研究の様子



図 1 (左) 裸苗、(右) コンテナ苗



図 2 育苗中のコンテナ苗

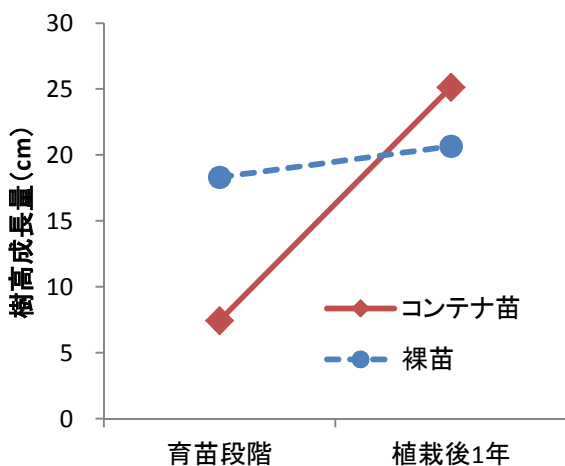


図 3 裸苗とコンテナ苗の樹高成長量

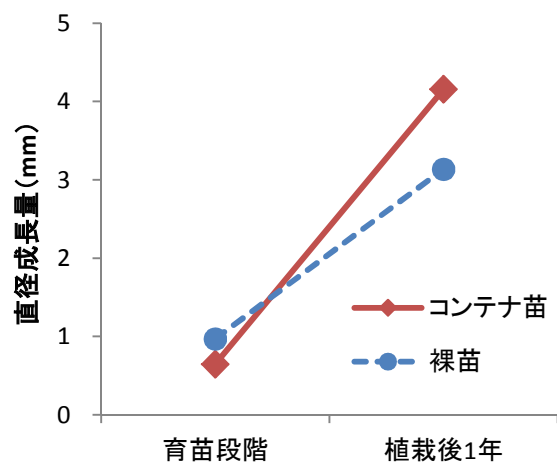


図 4 裸苗とコンテナ苗の直径成長量